

■議会報告会 並びに 総決起集会(学習会) 2016年03月08日九戸教育会館にて、26名の出席により「春季生活闘争総決起集会(民間に学ぶ春闘学習会)」が開催された。

高田議長は、「教え子達には自分の意見を言うことを普段から説いている。そうすることで先生生徒の相互で授業の成果が得られる。職場も同じで意見を言うことで変わってくる。」と、挨拶した。

学習会に先立ち、連合推薦の豊巻直子市議会議員からの議会報告を頂いた。これまでの一般質問内容と回答、明日行われる一般質問(小中学校の労働安全衛生体制の確立等)の内容を報告した。議会中にもかかわらず報告をいただき有難うございました。



民間に学ぶ春闘では、UAゼンセン岩手県支部労働条件部長県北地協事務局長の田渡弘一様に講義を頂いた。UAゼンセンは、繊維・衣料、医薬・化粧品、化学・エネルギー産業・建材、食品、流通、印刷、レジャー・サービス、福祉・医療産業、派遣業・業務請負業など、国民生活に関連する産業の労働者が結集して組織した産業別労働組合で、組織現勢は1,572,921名、2,449組合である。

UAゼンセンの手法は、統一闘争。統一闘争は、加盟組合の自主性をも尊重しつつも、指令・統制・妥結権を中央機関に集約することを原則とし、団結の力で相乗効果の発揮を旨とする考え方だと言う。<なぜ、統一要求なのか?>統一要求は、要求段階での経営者による抑制に負けず、要求内容に正当性を持たせるために取り組み、企業規模・業績による影響を完全には否定できないが、本来は「同一価値労働・同一賃金」が原則。加盟組合が自分たちの要求に正当性を持たせ、要求段階で優位に立つためには、産業・業種による統一要求が必要なため。

<なぜ、統一交渉なのか?>統一して一斉に交渉することにより、産業・業種ごとの情報交換が促進され、相乗効果を発揮することができる。同業他社(組合)における交渉状況や、回答状況に関する情報を共有することにより、解決前の段階における相乗効果を発揮することができ、加盟組合は最終交渉を有利に進めることができる。単独ではなく、互いに励まし合って闘うことにより、闘争をより効果的に進めることができる。世論の支持を得ることも容易になり、社会的影響力を行使することができる。このことにより、加盟組合は自社(組合)における交渉を有利に進めることができるため。

<なぜ、統一妥結なのか?>産業・業種ごとに統一して妥結することによって、経営者による抑制を防ぎ、公正労働基準に関するより高い相乗効果を推進することができる。単独では、どの段階で解決したらよいのか、判断に迷う局面が多々ある。そのようなとき、UAゼンセンから対応手法等を受けながら、加盟組合は同業他社(組合)情報を参考にしつつ、解決させるのか、ストライキ等の争議行為に入るのか、あるいは労働委員会等その他の方法で闘いを継続するのか、判断することになる。よって、統一と団結は最後の妥結段階において加盟組合にとって非常に大きなメリットをもたらす。と、統一行動 についての理解を深めることが出来た。産別の闘争中にもかかわらず、ご講演を頂きました田渡様、UAゼンセン岩手県支部様に改めて感謝を申し上げます。

